

Try Your Dreams!

7月1日（水）6年生が研究授業を実施しました！

研究授業では、6年生国語科「立場でどう変わる？インターネットの投稿を読み比べよう」の学習を行いました。児童が日常的に触れているインターネット上の投稿を教材として、書き手の立場によって意見や伝え方がどのように変わるのかを考える授業です。

これまでの学習では、複数の投稿文を読み比べながら、主張と理由の関係や説得の工夫について学んできました。また、「なぜその意見になるのか」という書き手の立場にも着目し、自分とは異なる考え方についても理解しようとする姿勢を育ててきました。研究授業では、自分たちが「投稿者」となり、ある立場に立って意見を発信する活動に取り組みしました。児童は「小学生」「保護者」「専門家」の立場を意識しながら、伝えたい主張を整理し、その立場に合った理由や事例を考えました。そして、これまでの学習で見つけた「共感を生む説得のポイント」を生かしながら、読み手に納得してもらえる投稿文づくりに挑戦しました。



子ども達の学び ～主体的・対話的で深い学びのために～

授業では、「同じ話題でも立場が変わると考え方や伝え方が変わる」ということに気付き、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、理由や具体例を工夫して表現する姿が見られました。グループで意見を交流する中で、多様な考え方に触れながら、自分たちの文章をよりよいものにしようとする様子も見られました。

投稿2 立場 保護者

生成AIを使う良さは、正しく使うと問題なく使い、AIの良さを引き出せることと、作りたい画像などを簡単に生成できることです。しかし、使いすぎ、信じすぎなどは良くないと思います。なぜなら、AIが必ずしも正しいわけではないし、AIも間違えることはあるからです。実際に答えを知ったうえで、AIに質問を試みたのですが、全然違う答えが返ってきました。

このようなことから、生成AIを使うのはいいと思いますが、使いすぎずに注意し、正しく使うことで、安全に利用できると思います。

「生成AIの良さは何だろう？」をテーマに、児童が小学生や保護者、専門家の立場になって投稿文を作成しました。学習を通して、生成AIには「すぐに調べられる」「学習を助けてくれる」といった便利さがある一方で、「誤った情報を示すことがある」「頼りすぎると考える力が弱くなる」といった課題もあることについて考えました。子どもたちは、立場によって意見や根拠が異なることに気付き、互いの考えを交流しながら、「便利だからこそ、自分で考えながら適切に活用することが大切」という考えを深めることができました。

投稿12 立場 専門家

私たちの班はAIを使うことに賛成な投稿に反対です。なぜかというAIにもミスをするかもしれませんし、ハルシネーションを起こすこともあります。Z世代のAIの使用率は約70%です。このことから多くのこれから社会を支える世代がAIに頼っていることがわかります。もしこのままこの世代が取締役などの役になりAIを使いミスをしてしまったら取り返しがつきません。これからの時代AIがハッキングでもされたら多く依存していたら個人情報や機密データが漏れてしまいます。

このことから私たちの班はAIを使うことは反対です。



今後に向けて ～キャリア教育としてめざすもの～

情報を受け取るだけでなく、自ら発信する機会が増えている現代社会において、相手や目的を意識して言葉を選ぶことは大切な力です。今回の学習を通して、児童は「誰に向けて、どのように伝えるか」を考えながら表現する経験を積むことができました。今後も国語科の学習を通して、多面的に物事を考え、自分の考えを適切に発信できる力の育成をめざしていきます。

児童作成の投稿文（一部）

★!★!★! 他クラスでは別のテーマで実践!

他のクラスでは、「SNSの利用について」をテーマに、それぞれが小学生・保護者・専門家の立場になって投稿文を作成しました。児童は、SNSのよさや危険性について考え、根拠を示しながら自分の意見を発信しました。議論を通して児童は、「SNSを使うべきではない」という意見だけでなく、「家庭でルールを決める」「保護者と相談しながら利用する」「安全な使い方を心がける」といった考えにも触れました。この学習を通して、児童は立場によって意見や根拠が変わることを実感するとともに、SNSの利便性と危険性の両面を踏まえながら、自分の考えを相手に伝える力を高めることができました。



投稿5 立場 専門家

小学生のおよそ2割がSNS上で知らない人とやりとりをしているという実態が明らかになり、学年が上がるにつれてその割合が高まる傾向が見られている。

SNSやオンラインゲームを通じて犯罪に巻き込まれた18歳未満の子どもは、2024年の1年間で1486人にのぼっている。しかもインターネットでは、依存症になる確率が年齢が高くなるにつれて多くなっている。

なので、年齢制限やフィルタリングなど、家庭での具体的なルールを設けることで対策するべきだ。また、もし子供がトラブルに巻き込まれたときなどにすぐ気付けるよう、日頃から親子でコミュニケーションをとっておくのも重要である。